

平成 30年3月31日

新宿区長 御中

法人名 NPO 法人 沖縄・球美の里

所在地 新宿区高田馬場 2-19-7

(フリガナ)

代表者氏名 理事長 むかいゆきこ 向井 雪子

### 事業実績報告書

新宿区協働推進基金条例施行規則第19条の規定により、下記のとおり報告します。

記

#### 1 助成対象事業

事業名	福島の子ども保養プロジェクト ～ボランティア体験 in 久米島～
実施日時または期間	平成29年5月1日から平成30年3月31日
対象者の範囲及び人数	新宿区在住の学生・主婦・社会人・退職者
事業内容	福島の子どもたちの保養施設「沖縄・球美の里」を沖縄県久米島町で運営している（本部は高田馬場）。夏休みなどの長期休暇の学童を受け入れのときの見守りと羽田から久米島への同行ボランティアを区民より募った。実施のための告知と保養関連講演会、ボランティア報告会、写真展などを実施。
具体的な活動状況	【学童保養～ボランティア体験 in 久米島】 ① 7/19～26 ②8/3～10 ③8/18～25 ④12/23～30 ⑤2018年1/3～10 ⑥3/24～31：2人ずつ合計12人が参加 【説明会】5/27 戸塚地域センター 【報告会】10/29、3/20 戸塚地域センター 【写真展】8/11～17 戸塚地域センター 【講演会】10/29 戸塚地域センター (期中にプログラムの詳細を検討し、福島より講演者として保養経験がありベラルーシを訪問した子どもたちを招請)
事業の成果	飛行機代の支援により、区民ボランティア12人が活動に参加できた。子どもたちの健康を守る活動に参加してもらったことにより、地域の子どもたちに対しても安全安心の気持ちを高めてもらえたのではないかと考えている。また、全国から集まるボランティアとの交流により、多様な考えや行動に触れ、具体

的には核エネルギーの依存から脱する気持ちも持ってもらったのではないだろうか。今後も継続してボランティアとして関わってもらおうことへのきっかけもつかんでもらえたと思う。

\*保養後、ボランティアさんたちからアンケートをとっている。その際の新宿区の人たちの声\*

・保養ボランティアでは、私の方が子どもたちと過ごせる時間をいただいて、人生で最もうれしかったこと楽しかったことに匹敵するような、素晴らしい経験が出来た。東京に戻ってからその余韻が残るような気がした。

・子どもたちから忘れないでね、と言われた言葉が心に響き、とても嬉しかった。

・6歳ぐらいの子どもたちが、甲状腺検診の話をしているのを聞いて、その原因となった原発事故に強い怒りを感じた

・夜間の子どもが休んだ後、ボランティアの方たちとも交流する時間がありよかった。

・普段の福島での生活の制約を感じさせないほど、子どもたちがのびのび遊んでいた。

・ちょっとしたおしゃべりや折り紙などが一番楽しかったと言われて、意外だった。何気ないことで良いのだなと思った。次回来ることがあれば、もっと一緒に過ごしたいと思う。

・ロコミ、FACEBOOK,などのSNSはもとより、メディアに取り上げられるといいと思う。残念なことに私の周りには知っている人がいなく、久米島に行く理由を話して初めて福島のことを思い出すという人も多いように思う。

・自分が子どもの時の興奮や感動を今一度体験できた。子どもたちと同じようにHAPPYになれた。

・東京生まれ東京育ちの自分としてはなかなか経験のしたことがないような、自然体験が出来た。

・先生や子育てのプロのボランティアの方がいて、自分の子育て経験は2人だが、もっと多様な子どもの対応について勉強になった。

・リピーターのお子さんも多く、親御さんのプロジェクトへの信頼感を感じた。

・新宿区の助成で、ボランティアに行きやすくなり、いい経験ができありがたく思う。これからも続けてほしい。

・東京の電気をまかなっていた原発の事故後の現状について、周囲の区民の関心も薄く、伝わらないことを残念に思う。情報をどう発信していくのか自分としても取り組みたい。

・原発事故以降の現状もチェルノブイリのことも知らなかったもので、いろいろなことを新たに知ることが出来た。

## 2 助成対象事業費内訳（実績）

※内訳は、できるだけ「単価×数量」で示してください。

※支払い金額を確認できる領収書等（写し可）を添付してください。

収入	経費	積算根拠（内訳）		金額
	団体負担金	寄付金から		361,451 円
	参加費、資料代等	10,000 円×2 人×6 回		120,000 円
	その他の収入			—
	協働推進基金助成金			434,146 円
	<b>収入総額</b>			
支出区分	費目	決算額	内訳	
	会議費	5,800 円	報告会 2 回 会議室代 <u>1,400 円</u> 講演会 1 回 ホール代 <u>4,400 円</u>	
	宣伝費	36,150 円	写真展・報告会チラシ印刷費 1000 枚 <u>10,040 円</u> 講演会カラーチラシ印刷費 8,000 枚 <u>26,110 円</u>	
	リース費	49,000 円	広河隆一撮影の写真展借用費(8/11～17)	
	消耗品費	3,215 円	用紙代 A4/1,000 枚 <u>861 円</u> 、文具代 <u>2,354 円</u>	
	謝礼	20,000 円	黒部信一小児科医師	
	人件費	16,000 円	講演会、報告会パート代 4,000 円×4 人	
	材料費	15,600 円	子どもたちの保養の写真 作成料 A4 プリント 26 枚(写真展)	
	交通費	523,480 円	★飛行機代各回 2 名ずつ(*昨年実績平均 51,567 円) ①53,800 円/1 人②57,800 ③51,000 ④49,500 ⑤49,500 ⑥47,800 合計 618,800 円(2 名分)－120,000 円= <u>498,800 円</u> 講師 (10/29) 2 人 (中・高生) <u>24,680 円</u>	
	その他の諸経費	18,352 円	切手代 <u>8,200 円</u> ★旅行保険 <u>6,480 円</u> (540 円×12 人) 展示写真送料 <u>3,672 円</u>	
助成対象事業費（小計）	687,597 円			
余剰金	—			
助成対象外事業費	228,000 円	飛行機代 120,000 円(10,000 円×12 人) 食事・施設費 96,000 円(1,000 円×8 日×12 人) 泥染め T シャツ 12,000 円		
<b>事業総額</b>	<b>915,597 円</b>			

### 3 助成事業の成果と課題

評価のポイント	自己評価
事業を計画した当初に決めた目標について、どこまで達成できたか。	新宿区民のみなさんから学童保養に各回 2 人ずつ 6 回、ボランティアに参加していただくという基本目標は達成できた。
地域にどのような効果があったか、又は今後見込まれる効果は何か。	写真展開催、講演会を実施して、ボランティア応募以外に区民の方に参加していただくことができた。どんなボランティアを必要としているかを知ってもらい、復興支援の一助となっていることを、理解していただくことにつながった。
費用対効果は適正であったか。	適正だった。
新たに気づいた課題・問題点は何か。また、どのような対策が考えられるか。	学童保養の時期は飛行機代が高い時期にあたるため、助成金と団体負担金の割合、ボランティアの参加費なども含めてもう少し検討が必要。
理解者や支援者が広がったか。	ボランティアに参加した区民から、ほかの関連イベントにもボランティアとして参加していただいた。今後も事務所が近いので手伝いたいという申し出があった。また、福島の人たちの現状に触れることができ、認識を新たにしたいという声があった。
事務局の執行体制は十分だったか。	専従体制が十分でないため、もう少し、事務局の体制を固めたい。
今回の事業を次年度以降も継続していく場合、助成金だけに依存せず、今後も安定的に事業を継続するための財源確保等に向けた取組がなされていたか。	財源確保に向けて、寄付金集めのための宣伝、広報に力を入れている。
その他	

